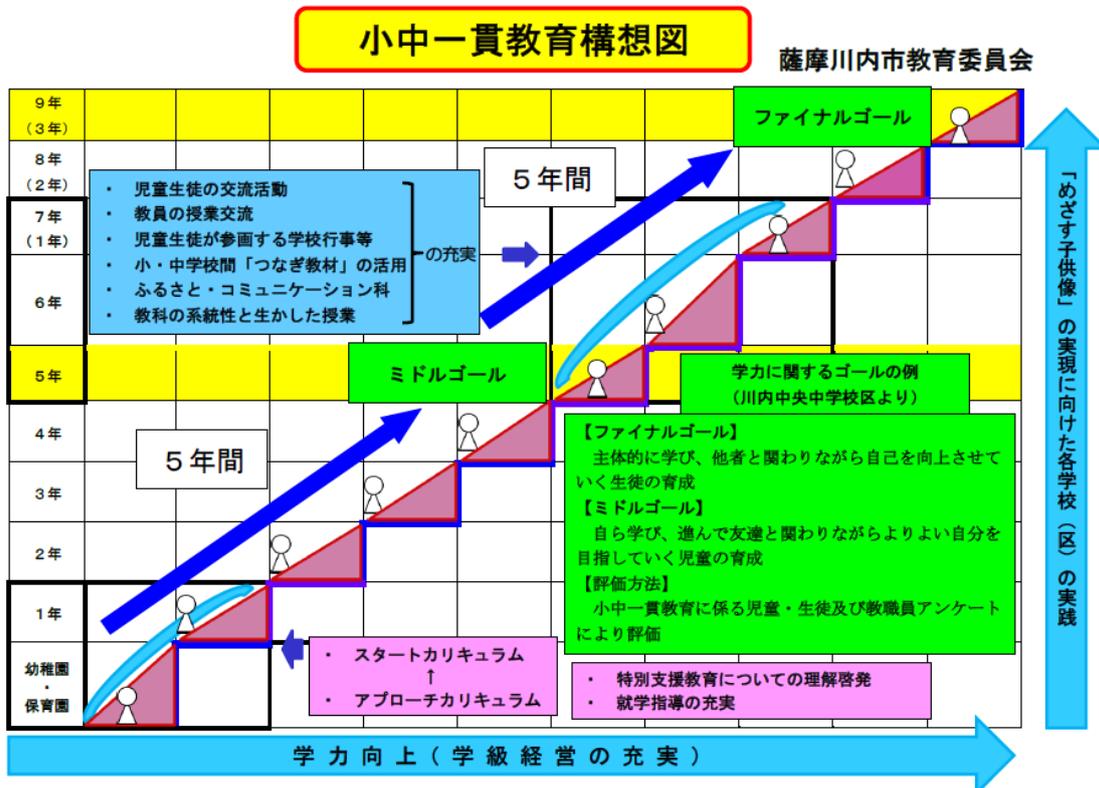


「学習者主体の授業」の実現につながる小中連携教育

～9年間を見通した授業づくり～

- 子どもたちが安心して学び続け、自分らしく成長していくためには、学校段階が変わっても学びが途切れることなく、連続した学びが保障されることが重要です。
- 文部科学省では、小中連携教育を、「小学校と中学校が互いに連携し、義務教育9年間を見通して教育活動を充実させる取組」と位置付けています。これは、学校段階の区切りを越えて子供の成長を継続的に支える教育の在り方を示すものです。
- 県内においても、学校間の交流活動や授業参観、教職員同士の学び合いなどを通して、学習面だけでなく、生活面や人間関係づくりも含め、切れ目なく子供を支える取組が進められています。
- 小中一貫教育に取り組む薩摩川内市では、小学校高学年段階の到達目標を「ミドルゴール」、中学校卒業時の姿を「ファイナルゴール」として段階的に設定し、9年間を見通した教育を推進しています。



（出典）薩摩川内市教育委員会「薩摩川内市の小中一貫教育」

- このように、小中学校がめざす子供の姿を共有し、9年間を見通した指導を積み重ねていくことは、子供の学びの連続性を保障し、主体的に学び続ける力の育成につながります。
- 義務教育9年間を貫く視点で子供の学びを捉えることは、全ての学校で実践可能であり、授業改善のさらなる充実につながります。
- なお、「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」は、幼児期の学びと小学校での学びを円滑につなぐための取組です。幼児期に育まれてきた主体的な遊びや学びを生かしながら、小学校での生活や学習へと無理なく移行できるようにすることをねらいとしています。こうした幼保小の連携も、子供の学びの連続性を支える大切な視点の一つです。

授業づくりのための参考資料等



へき地・複式教育の基本的な事項についてまとめた
『『南北600キロの教育』～へき地・複式教育の手引き～』はこちらから。

← [鹿児島県教育委員会](#) 「南北600キロの教育～へき地・複式教育の手引き～」



全43市町村教育委員会から提出していただいた
「学習者主体の授業」実践例はこちらから。

← [鹿児島県教育委員会](#) 「「学習者主体の授業」実践例」



県総合教育センターが運営する「かご研ポータル」は、教職員研修支援ポータルサイトです。教職員研修や児童生徒支援、授業づくり、校内研修などに関する資料や研修情報が掲載されており、日々の教育実践に役立つ情報をいつでも確認することができます。

「かご研ポータル」はこちらから。

← [鹿児島県総合教育センター](#) 「かご研ポータル」



幼児教育施設及び小学校における架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図るための「鹿児島県幼保小接続ガイドライン」はこちらから。

← [鹿児島県教育委員会](#) 「鹿児島県幼保小接続ガイドライン」

Memo

